

# 平成25年11月の「思いやり通信」

再生エネ 海外勢続々 — 日本に7000億円投資

買い取り制度呼び水 — 太陽光バブルの恐れ



国内の再生可能エネルギー発電に海外勢が相次いで参入します。オーストラリアや米中の企業・銀行が各地に太陽光発電所を建設して電力を供給します。投資額は今後5年で計7000億円規模となり、国内の太陽光発電向けの1割弱を占める見通しです。

海外の潤沢な資金が入ることで再生エネの普及に弾みが付く一方、急速な拡大で電力コストも膨らみそうです。

(2013年10月19日 日本経済新聞記事から抜粋)

洋上風力発電に育成策 — 購入価格1.5倍超に

政府が来年度 再生エネ 太陽光偏重を是正



政府は太陽光に続く再生可能エネルギーの柱として、風力発電の育成に乗り出します。電力会社に買い取りを義務づけている風力の価格を来年度に引き上げます。

海に風車を置く「洋上風力」向けに高めの専用価格を新設し、陸上風力向けの1.5倍～2倍とする見込みです。

民間投資が集中している太陽光向けの価格は同時に引き下げ、風力にも投資を振り向けることでエネルギー源を多様化します。

(2013年10月26日 日本経済新聞記事から抜粋)

